

令和二年度 入学試験（社会人）問題（国語）

一次の文章を読んで、後の【1】～【12】に答えなさい。なお、作問の都合上、一部の表記を変えていきます。

夜、静かなまちのなかをクルマを走らせていると、ふと思うことがある。家々は静まり返っている。どの家も屋根の下では、家族が何の問題もなくヘイオン^aに暮らしているように感じられるけれど、必ずしもそうではないだろうな。むしろ屋根の下では、誰かががんをワズラ^bっていたり、認知症の親のケアに追われていたり、障害児の養育が大変だったりなど、何らかの問題をかかえている家が少なくないだろう。そんな思いが、頭のカタスミ^cを過ぎるのだ。

そんなことを思うのは、病気や障害や事件の取材に長年取り組んできて、様々な家族の内実をとらえてきたからだろう。だが、家庭内にそうした問題をかかえているからといって、その家族は不幸なのかというと、必ずしもそうではない。直面する問題としっかりと向き合い、たとえ病気や障害などの現実は変えられなくても、現実を真正面から受け止め、新しい生き方や人生観や価値観を見出して、こころの成熟した日々を過ごしている家族が少くない。

ある医師一家の三十余年の歩みを紹介したい。カンワケアや在宅医療に取り組んでいる医師・蘆野吉和さんと妻の潤子さん、そして三人の子どもたちの一家だ。

三〇年以上前のこと。潤子さんが長女の晃子ちゃんを出産したとき、医師がおくるみにくるんだ赤ちゃんを抱っこして、「無事お生まれになりましたよ」と言って赤ちゃんの顔を見せてくれたのだが、なぜか自分には抱かせてくれなかった。からだが標準より小さいので、特別室で世話をしているという。どうも変だと思っていたら、三日目に医師が来て、「実は赤ちゃんの右手の指がないんです。ほかに合併症がないか、検査中なのです」と告げられた。

『だから、ほかのお母さんたちと一緒に授乳室でお乳を飲ませてあげられなかつたのか』と、潤子さんはようやく疑問を解消することができた。専門的には先天性絞扼輪症候群と呼ばれる障害で、一般には先天性四肢障害と言われるものの一つになる。

潤子さんは、看護師長に尋ねられた。「お乳を飲ませるとき、みなさんと同じ授乳室でいいですか、それとも個室にしましょうか」と。潤子さんは【I】に決断した。

『ここで負けてはいけない。たとえこの子に障害があつても隠すことなく堂々と生きられるようにしなければ』と。

潤子さんは、すぐに返事をした。

「みなさんと一緒にいいです」

それでも出産後三か月ほどは、毎日泣いてばかりいた。しかし、泣いてはいても潤子さんのこころのなかには、しだいにわが子がありのまま成長していくのにまかせようという思いが【II】を下ろしていく。

晃子ちゃんが二歳になり、読み聞かせする絵本に興味を示すようになってきたころ、児童書をたくさん並べている書店に立ち寄ると、平積みにしてある絵本の表紙が目に飛びこんできた。涙を流して母親を見上げている少女の顔が大きく描かれ、その子の手を母親がしっかりと握っている。タイトルは『さつちゃんのまほうのて』。共著者のなかに、「先天性四肢障害児父母の会」と記されている。潤子さんは、すぐに一冊を手に取った。これからわが子に障害のある手のことを、どう話そうかと悩んでいた【III】のことだった。

『この絵本のさつちゃんは、わが子のことではないか』

潤子さんはその一冊を買って帰り、早速晃子ちゃんに読んでやった。それからというもの、ほかの絵本と一緒に、何度もその絵本を読み聞かせた。

その絵本の物語は、こうだ。幼稚園に通うさつちゃんは、みんなとまことに遊びをするのが大好き。ある日、おかあさん役をしたくなつたのだが、強い女の子がそうさせてくれない。〈てのないおかあさんなんてへんだもん〉と。

さつちゃんは幼稚園を飛び出し、家に帰るなり、おかあさんに訴える。「さちこのてには、どうしてゆびがないの？」と。おかあさんはやさしく説明してあげるが、さつちゃんは涙を流して、「いやだ、いやだ」と言う。幼稚園に行かなくなり、家でもあまり口をきかなくなる。

そのうちに、おかあさんが入院し、赤ちゃんを出産する。さつちゃんはおとうさんに連れられて病院に行き、赤ちゃんのほっぺをさわる。赤ちゃんはかわいい両手をふってうれしそうにする。
「さちこも とうとう おねえさんね」と、おかあさんが言う。帰り道、おとうさんに手をつながれて歩きながら、さつちゃんは

「さつちゃん、ゆびが なくても おかあさんに なれるかな」

おとうさんは、しっかりとした声で答えた。

「なれるとも、さちこは、すてきなおかあさんに なれるぞ。だれにもまけないおかあさんに なれるぞ」

「それにね さちこ、こうして さちこと てを つないで あるいていると、とっても ふしぎな ちから が さちこのてから やってきて、おとうさんのからだ いっぱいに なるんだ。さちこのては まるで ま ほうのてだね」

やがてさつちゃんは再び幼稚園に行くようになり、みんなと元気に遊ぶようになつた。

晃子ちゃんは、両親の愛情と絵本の支えがあつたからだろう、幼稚園でも小中高校でも、指の変形している右手のことを気にしたり悩んだりする様子もなく、自分なりに生きる工夫をして成長していった。そして、大学と大学院では障害者支援の問題をセンコウして、その後は、大学で社会福祉士を育てる講座などを担当する研究者になつた。子どもの発達などを専門とする研究者と結婚し、二児の母となつてからも、育児と研究者の仕事を両立させている。

潤子さんは、長女に続いて、男の子一人を育てたが、男の子たちにも、幼いころから長女に対しても同じように、いろいろな絵本と一緒に、『さつちゃんの まほうのて』を繰り返し読み聞かせた。次男が三歳になるころのこと、ある日、泣きべそをかきながら、「お姉ちゃんのおててがたいへんだあ」と母親にしがみついてきた。潤子さんは、『あら、はじめて気がついて、お姉ちゃんの一大事と思ったのか』と、むしろおかしくなり、笑いながら言い聞かせた。
「だいじょうぶよ、びっくりしたね。お姉ちゃんのおてては、さつちゃんとおなじまほうの手なのよ。痛くはないの。それにお姉ちゃんはなんでもできるでしょう」

次男は「ああ、そうか」と納得した表情を見せると、涙をぬぐつてまた遊びに出でていったという。

潤子さんは、三人の子どもたちが幼稚園のときも小学校に入つてからも、進級のたびに学級文庫に『さつちゃんの まほうのて』を寄贈して並べて置いてもらつたといふ。晃子さんはやがて結婚してから、先天性四肢障害児父母の会の『父母の会通信』(月刊)に寄せた手記のなかでこう記した。

「進級しても転校しても、なぜか、いつも教室の本棚に『さつちゃんの まほうのて』があり、私にとつて盾のようないわゆる『まほうのて』がありました。Dたて

このようないわゆる『まほうのて』があることは、私が潤子さんからうかがつたのは、最近になつてからのことだ。しかも、晃子さんからも、四肢障害についての研究や活動をしていることや、障害児のいる家庭の災害時の課題についても研究と活動をしているという近況をうかがつた。人々は外部からは見えないところで、なんと内実の濃い心豊かな人生を歩んでいることかと、私はあらためて深い学びを得たものだつた。

潤子さんは、こう話す。

「娘の手は絶対に隠さないで育てていこうと思いました。個性の違う、いろんな人がいてあたりまえ。障害はその人の個性と考えて、生きるうえで強みにするくらいのほうがいいと思うのです。子育てのなかで、私はどれほど『さつちゃん』に励まされ、『きっと大丈夫』と、娘の成長を信じる勇気をいただいたことか。まさに絵本

Eは『生きる力』になつていました」

晃子さんにとって、手の障害は人生になんの支障にもならなかつたどころか、むしろ障害者支援の実践的研究者として生きる精神的エネルギー源になつたことは確かだ。晃子さんから頂いた手紙には、こう記してある。

「私の活動は、さまざま当事者と一緒に“やってみる”という方向に変わつてきています。最近、全国から集まつた四肢障害の仲間と一緒に、自分たちの良さ、すごさを共有するワークショップをしました。研究者としては、

形にならなないことばかりなのですが、そうして出会った人たちや学生たちに何かを残せれば、それが私の仕事かな、と思っています」

このような晃子さんの地道にして確かな生き方の原点は、母・潤子さんの「V」という子育ての決意にあつたと言えるだろう。

(柳田邦男『人生の1冊の絵本』岩波書店より)

【1】二重傍線部 a～e のカタカナと同じ漢字を書くものを、次のそれぞれの選択肢①～⑤の傍線部分から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 1～5】

- 1 a ヘイオン
①オンコウな紳士だ。
②師のオングに報いる。
③オンケンな考え方の持主だ。
④あの歌手はオンイキが広い。
⑤クオンの平和を祈る。

- 2 b ワズラって
①彼の心配はキユウに過ぎない。
②この手続きはハンザツだ。
③入所者のシッペイの履歴を調べる。
④亡くなつた方にアイトウの意を表する。
⑤手術でカンブを摘出した。

- 3 c カタスミ
①非正規社員のタイグウを改善する。
②都會のイチグウに生きる。
③市場でグウゼン見つけた器だ。
④この小説のグワイを読み解く。
⑤二十年ごとのセングウ。

- 4 d カンワ
①注意をカンキする。
②部活動にカンユウする。
③初勝利に生徒は皆カンキした。
④カンキュウ自在の投球術。
⑤カンダイな措置をお願いする。

- 5 e センコウ
①日頃のオコナいを改める。
②タクみな演技に魅了された。
③薬のキき目を確かめる。
④夜もすっかりフけてしまった。
⑤積極的にセめる姿勢が大切だ。

【2】 空欄Iに入る語として最も適切なものを次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

- ①暫時 ②定時 ③適時 ④瞬時 ⑤隨時

【3】 空欄IIに入る語として最も適切なものを次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

- ①根 ②腰 ③肩 ④幕 ⑤荷

【4】 空欄IIIに入る語として最も適切なものを次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

- ①矢筈 ②矢先 ③矢尻 ④矢立 ⑤矢庭

【5】 空欄IVに入る語として最も適切なものを次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 【解答欄は問7】

【6】 傍線部A「ふと思うこと」とあります、「思うこと」の内容として、最も適切なものを次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問10】

①まちは静まり返っているが、どこの家でも病気の家族がいたり、認知症の親を介護したり、障害のある子どもを養育したりと、何らかの問題を抱え、苦悩しているにちがいない。そして、その中で多くの家族が、直面する現実の苦労から逃れて生きるすべを身につけて、なんとか日々の暮らしを送っているのだろう。

②静まり返っているまちの中のそれぞれの家では、病気の家族がいたり、高齢者や障害者のケアに携わっているなど、いろいろな問題を抱えていることが少なくないだろう。しかし、そういう問題を抱えていても、現実と向き合い、新しい生き方や考え方を見つけ、内面的に豊かな暮らしを送っている家族も少なくないのだろう。

③夜のまちは静まり返って何事もないように思えるが、ほとんどの家では、病人や、ケアを必要とする高齢者や障害者を抱え、さまざまな問題に直面しているにちがいない。そして、その家族たちは現実の重みに耐えきれず、家中から笑顔がすっかり消え、沈んだ雰囲気に満ちた暮らしを送っていることだろう。

④静まり返ったまちであるが、各家では、難病に苦しむ人、認知症の親のケアに疲れ切った人、障害のある子どものケアに頭を悩ませたりと、いろいろな問題を抱えているにちがいない。しかし、ほとんどの家では、家族が団結して直面する問題を乗り越え、一人ひとりがやすらかな気持ちで毎日の生活を送っているのだろう。

【解答欄は問6】

【解答欄は問8】

【解答欄は問7】

【7】傍線部B「出産後三か月ほど」の潤子さんの心情を説明した次の選択肢①～⑤の中から、適切ではないものを一つ選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問11】

- ①障害のあるわが子を、これから先どのように育てていけばいいのかという不安。
- ②障害を隠すことなく生きようとしながらも、本当にそれでいいのかという迷い。
- ③障害があつてもしっかりと成長しつづけているわが子に対するこの上ない慈愛。
- ④障害のことなど全く心配せず、子どもが生まれたことに対する純真無垢な喜び。
- ⑤障害のあることで、将来わが子が学校や社会で苦労するに違いないという苦悩。

【8】傍線部C「ああ、そうか」と納得した表情を見せる」とありますが、次男が「納得した表情」を見せた理由として最も適切なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問12】

- ①母親の「さっちゃんとおなじまほうの手なのよ。」という言葉に、姉の手は「たいへん」でもなんでもないと理解できたから。
- ②母親の「お姉ちゃんはなんでもできるでしょう」という言葉に、姉の手は万能の手だと初めて知ることができたから。
- ③母親の「痛くはないの。」という言葉に、姉は自分が想像したように、手に大けがをしたわけではなかつたのだと安堵したから。
- ④母親の「だいじょうぶよ、びっくりしたね。」という優しい言葉に、自分が勘違いして泣いてしまったことが恥ずかしかったから。
- ⑤母親がわかりやすく、丁寧に説明してくれた言葉に、母親は何でもわかっているのだから大丈夫だと安心することができたから。

【9】傍線部D「盾のような存在」とはどういう意味ですか。最も適切なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問13】

- ①自分の身体を優しく包み込んで、あたためてくれる存在
- ②自分の身体の周囲を堅く囲って他者に触れさせない存在
- ③他人の中傷を遮断して聞こえないようにしてくれる存在
- ④傷つきそうになったときに自分の心を支えてくれる存在
- ⑤自分の身体に加えられそうな暴力から守ってくれる存在

【10】傍線部E「晃子さんにとつて、手の障害は・・・障害者支援の実践的研究者として生きる精神的エネルギー源になつたことは確かだ。」と、筆者が断言している根拠は何ですか。最も適切なものを次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問14】

- ①晃子さんの弟が一人とも、姉の右手の障害を気にすることなく、差別や偏見を持たずに成長してきたこと。
- ②潤子さんが三人の子どもたちに『さっちゃんのまほうのて』を、繰り返し読み聞かせて育ててきた事実。
- ③晃子さんや弟たちが進級するたびに、『さっちゃんのまほうのて』を学級に寄贈してきた潤子さんの行動。
- ④潤子さんの、『さっちゃん』に励まされ、『生きる力』を得ることができたという、三十年余に渡る体験談。
- ⑤晃子さんが、全国の四肢障害の仲間とともに、自分たちの良さやすごさを共有する活動を進めていること。

【11】 空欄▽に入ることばとして最も適切なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問】 15

- ①ここで負けて泣いてばかりいるのは情けない
- ②この子がありのままに成長すればそれでよい
- ③この子が堂々と生きられるようにしなければ
- ④どれほど『さっちゃん』に励まされたことか
- ⑤絵本から娘の成長を信じる勇気をいただいた

【12】 この文章を読んだ五人の高校生が感想を述べています。この中で、本文の趣旨を誤解しているものを、次の

選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問】 16

- ①蘆野さん一家の三十余年にわたる子育ての歩みを紹介することを通して、障害があることなど何でもないことであり、世間も特別視せず、何ごともなかつたように振る舞うことが大切なのだと、筆者は訴えているように思いました。
- ②『さっちゃんの まほうのて』は、母親の潤子さんにとっても、生きる力を得られる絵本だったのでしょうかね。きっと、この絵本を読んだ晃子さんの同級生も、晃子さんの手は「まほうのて」なのだろうと、自然に理解できたにちがいないと思いました。
- ③障害があることは、本人にもその家族にも、いろいろな困難を生じさせるかもしれません、障害とどのように向き合って生きるのかという姿勢や考え方ひとつで、かえって充実した生き方をできるができるのだと、教えられました。
- ④母親の潤子さんが、「障害はその人の個性と考えて、生きるうえで強みにするくらいのほうがいい」と述べていますが、その母親の言葉を娘の晃子さんが実際に実践的研究者として実現していることに感心しました。
- ⑤障害のある姉と共に生活し、その障害について理解を深める絵本に幼い頃から接して成長した晃子さんの弟のエピソードは、障害者に対する差別や偏見をなくしていくために大切なことは何か、という示唆を与えてくれると思いました。

二次の【A】と【B】の文章を読んで、後の【1】～【15】の問い合わせに答えなさい。なお、作問の都合上、一部の表記を変えています。

A

ロダンの「考える人」は前ごみで座り、片腕をあげて、あごにあてている。背を丸めて、じっとものを考えている。それに対して、ご存知わが国の広隆寺、中宮寺の「半跏思惟像」^aは椅子に座り、片腕をあげ、背筋をのばして指先を頬にあてている。思惟する像といわれているわけだ。半跏というのは、片方の脚をもう一方の脚の上に乗せているからである。

この種の、座つて「思惟」するポーズはインド、中国、朝鮮半島にもみられるから、アジア的な座法の一つと考えてよいだろう。ところがさきのロダンの方は、「考える」ポーズをとっているところは半跏思惟像の場合と同じであるが、よく見ると座り方の姿勢がまるで違っている。第一、背筋が垂直に立っていない。I呼吸が整えられているようにはみえない。もう一つつけ加えると、ロダンの「考える人」はその考える行為をやめたあとは、おそらく立ち上がって、そのまま直立歩行の日常生活にもどるはずである。そこから、西洋文明の背景がみえてくるだろう。これに対して、半跏思惟像がその思惟する行為をやめるときは、再び大地に座る生活に復帰するのではないか。もちろん、直立し歩行する時間がないのではない。が、生活の基本が、座る習慣とひと続きであったことを忘れるわけにはいかない。その背景には、長い長い座の文明といったものが横たわっている。「考える人」と「半跏思惟像」の違いは、シェイクスピア劇の舞台とわが国のお能の舞台との違いに通じている、といつてもいいくらいだ。

若い頃、西洋世界に旅をするとき、修道院に泊めてもらうことがあった。フランスのシトー修道院、アレクサンドリアのコプト教会などであるが、そこで経験したことが忘れられない。早朝おこなわれるレイハイ^aに参加して驚かされた。默想するときも經典を朗唱するときも、修道士たちの姿勢がてんでんぱらばらで一定していなかつたからだ。床に座る者、あぐらをかく者、立ったままの者、柱や壁に背をもたせかけている者、じつにIIであつた。それはわが国の僧院でお目にかかる雲水たちの姿とは似ても似つかぬ光景だった。要するに、姿勢を正して呼吸を整えている修道士はひとりもいなかつたような気がする。あとから聞いて再び驚いたが、キリスト教の修道院では、伝統的にとくに姿勢を正したり呼吸を整えたりすることはないのだ、ということだつた。

ああ、そのためか、と思った。ロダンの「考える人」では、「考える」という行為の表現に重点がおかれているけれども、「座る」ことに格別の関心が払われているようにはみえない。したがつてまた、このロダンの「考える人」は、そのままデカルトの言う「われ考える、ゆえにわれあり」に通じてもいる。そしてそのデカルトの言う「考える」人間の原像には、姿勢を正して呼吸を整えるポーズは含まれてはいないのだろう。それに対してわが国における「座る」人間の原像はさしづめ道元であるが、そこには姿勢と呼吸法を抜きにした思惟などということはおよそ考えられない。

私はこれまで小学校や中学校に行つて、生徒たちの前で話をするキカイ^bがあった。教室で聞いてくれるときもあるが、広い部屋では床に座つて聞いてくれる場合もある。そんなときはみんな床に尻をつき、両ひざを抱きかかえるようにして聞いている。運動座り、というのだそうであるが、どの生徒も姿勢を正して呼吸を整えているようにはとても見えなかつた。全員がロダン・スタイルになつていて、半跏思惟像スタイルにはなつていなかつたのである。

あらためて思はないわけにはいかなかつた。日本の社会そのものが伝統的な文化の型の多くを振り捨てて近代化の軌道をまっしぐらに突き進んできた、と。それは一面で「直立歩行」の原則に立つ産業社会が「座の文化」にもとづく伝統社会の価値観をしだいに抑圧し、忘却していく過程であつたといえるだろう。それは我々の古代からの芸能や武道、そして茶道までが万事腰高になり、その結果、重心の低い大地的な座法の意味を喪失していくことにつながる。

かつて我々の社会では、「読み、書き、そろばん」という教育原理が生きていたことを思い出す。だが、そろそこへんで立ちどまり、「読み、書き、座る」へと方向転換して、「そろばん（ゼニ勘定）」ということばの

見直しをはじめる時がきているのではないだろうか。

B

もう四十年以上前のことになるが、私は箱根の山を歩いて、そして越えたことがある。一日目は、箱根湯本から雨のなかを元箱根までのぼり、芦の湯に一泊した。翌日は宮の下から歩きはじめ、仙石原まで足をのばした。前日と同じように雨が降っていたためもあり、仙石原からはバスで乙女峠越えて御殿場に出た。そしてその翌日は、沼津まで歩いたのである。

御殿場でふり仰いだ富士山がほとんどこの世のものとも思われない美しさで輝いていたことを思い出したのである。そのあと沼津まで単調な道を歩いていったが、富士はしだいに私の心に滲み通ってくるようだった。沼津に出て海岸に寝そべったとき、岸を打つ荒い波しぶきが空に舞い上がった。

E 私はそのとき、富士の山は東海道を歩きながら見るものだと思った。新幹線の窓を通して眺めたり、飛行機のうえから見下ろしたりするものではない。葛飾北斎や安藤広重の版画にあらわれる富士の姿が、ときに美しく、そして怖ろしいものにみえるのは、それが東海道を足で歩いた人間の眼によってとらえられたからであるに違いない、と思ったのである。

いまふれた北斎の『富嶽三十六景』や広重の『東海道五十三次』に、もうすこし目を近づけてみよう。そこには富士の美しさ、大きさ、立派さが、たしかに見事に描かれているが、ところがその手前の方に点じられている人間の姿は、なんとも小さく、何とも頼りなくみえることか。ちょうど遠近法が逆立ちしているようにもみえ、富士の方がぐっと迫ってきて、まるで生きもののように映る。それに対して人間の側ははるか後景に退いてしまって、III のようにしかみえない。

それらの画面のなかで真に活きてはたらいているのは富士山の方であって、それに比して人間は風に舞う木の葉や白く飛び散る波しぶきのようにはかなく、存在感が薄くみえる。人間と自然の関係が我々の肉眼で見ているのとは逆転して、自然の方がむしろ主人公で独自の意味をもっている。そのような感覚を北斎や広重と私も共有していたのだと気がついたのである。

富士山は单なる山なのではない。それは、あの山部赤人が『万葉集』の「不尽山の望くる歌」でうたっているように神の山だった。

天地の 分れし時ゆ 神さびて 高き貴き 駿河なる 布士かみの高嶺を ······

(天と地が 分かれた時から 神々しく 高く貴い 駿河の国にある 富士の高嶺を ··· *現代語訳は作問者による)

ここでいう神さびた山は、神のごとく振舞う山を意味していたことは言うまでもないが、それは古く神の降臨する山だったのだ。天孫ニニギノミコトも日向の国、高千穂の峯に降臨している。山に憑着ひょうちやくした神や神靈は天空から舞い下りたり、海上のかなたから飛来したりするというデンシヨウが数多く生みだされることにもなった。こうしてこの神靈のこもる山は、いつしか死者のタマシイの登る山、というイメージをふくらませるようになる。日本列島にひろがる山岳信仰が誕生することにつながったのである。

N この頃になって、異変がおこりはじめた。東京の下町で、途方もない塔を建てるのだという。電波塔では世界一の高さを目指すスカイツリーの建設だという。中国、上海の建物をしのいで、地球を眼下にとらえる眺望をする手にするのだ、と日本中大騒ぎになつた。

そこで宣伝合戦がはじまる。いろんなメディアで、このスカイツリーを目玉に観光写真による紹介があいつぐようになった。そのなかで私の目を惹いたのが、大きなスカイツリーを前景にして、そのはるか後景に小さな富士山をみせる一枚の絵だった。小さな小さな富士山が、こじんまりした三角定規のような三角形のなかに閉じこめられ、スカイツリーの单なる小道具、いや引き立て役を演じさせられていたのである。

F もしも広重がこれを見たら、神をも怖れざる所行として叱りつけたに違いない。北斎もまた、V スカイツリーをはつたと睨みつけたに違ないのである。

A B ともに、山折哲雄『米寿を過ぎて長い旅』海風社より)

【1】二重傍線部 a・b・e・f のカタカナと同じ漢字を書くものを、次のそれぞれの選択肢①～⑤の傍線部から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 17 ～ 20】

17 a レイハイ //

- ①食品をハイタツする。
- ②多数の卒業生をハイシユツする。
- ③ハイキン主義と非難される。
- ④外国人をハイセキしてはならない。
- ⑤市中をハイカイする高齢者に声をかける。

18 b キカイ //

- ①隣人にエシャクする。
- ②公園の清掃をココロヨく手伝う。
- ③日々の生活で師匠の教えをイマシめとする。
- ④彼の行動をアヤしむ。
- ⑤若い頃の過ちをクいる。

19 e デンショウ //

- ①制服にコウショウをつける。
- ②裁判でショウニンとなる。
- ③友人にパートナーをショウカイする。
- ④新製品をスイショウする。
- ⑤日程の変更をリョウショウする。

20 f タマシイ //

- ①彼の哲学のコンカンをなす部分。
- ②イコンを残す試合となつた。
- ③荒れた大地をカイコンする。
- ④ショウコンたくましく売り歩く。
- ⑤中学校の友人とはコンイにしている。

【2】二重傍線部 c 「点じられている」と同じ意味で「点」の字が用いられている熟語を、次の①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 21】

21 ①点在 ②点画 ③点灯 ④点眼 ⑤点景

【3】空欄 I に入る語として最も適切なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

22 ①ところで ②したがって ③しかし ④それでも ⑤たとえば

【4】空欄 II に入る熟語として最も適切なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 22】

23 ①多種多様 ②独立独歩 ③不即不離 ④孤立無援 ⑤以心伝心

【5】空欄 III に、「ごく小さいもの」という意味の慣用表現を完成させるために補う最も適切な語を、次の選択肢

①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問 24】

24 ①まめつぶ ②むぎつぶ ③めしつぶ ④あめつぶ

⑤けしつぶ

【6】

- ①食品をハイタツする。
- ②多数の卒業生をハイシユツする。
- ③ハイキン主義と非難される。
- ④外国人をハイセキしてはならない。
- ⑤市中をハイカイする高齢者に声をかける。

【6】 空欄Vに入る語として最も適切なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 【25】 ①ところが ②それゆえ ③さらには ④ようやく ⑤そのため

【7】 空欄Vに入る慣用句として最も適切なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 【26】 ①矢も盾もたまらず
②木で鼻を括ったように
③とりつく島もなく
④まなじりを決して
⑤開いた口がふさがらず

【8】 二重傍線部d『万葉集』について、次の小問(1)、(2)に答えなさい。

【27】 (1)『万葉集』が編纂された時代として最も適切なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問27】

- ①六世紀 ②七世紀 ③八世紀 ④十世紀 ⑤十二世紀

【28】 (2)『万葉集』に歌が収録されていない歌人を、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

- ①柿本人麻呂 ②大伴旅人 ③山上憶良 ④額田王 ⑤紀貫之

【9】 傍線部A「西洋文明の背景」の説明として最も適切なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問29】

- ①直立歩行による生活が基本であって、常に相手よりも優位に立つことを重視する文明のあり方。
②自然を自己と切り離した対象として捉え、その対象に働きかける行為を重視する文明のあり方。
③神への向き合い方も各個人にまかされているように、個人主義が徹底されている文明のあり方。
④考えることと生活することが截然と分かれしており、座ることが軽んじられている文明のあり方。
⑤直立歩行で大地を歩き回る人間が主役であって、自然は人間に従属すると考える文明のあり方。

【10】 傍線部B「座の文明」に当てはまらないものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

- 【30】 ①雲水の修行 ②禅 ③能の舞台 ④運動座り ⑤武道

【解答欄は問25】

【解答欄は問26】

【11】 傍線部C 「そのままデカルトの言う「われ考える、ゆえにわれあり」に通じてもいる」とありますが、「われ考える、ゆえにわれあり」に通じている」とはどういう意味ですか。その説明として最も適切なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問31】

- ① 「考える」という経験を積み重ねることが、「私」という人格を形成していくという考え方につながつていくということ。
- ② 「考える」ことによって、自己の内面に潜む意識と無意識を客観的・分析的に捉える心理学につながつていくということ。
- ③ 「考える」ことによって初めて発見できる「自己」という存在を重視する個人主義の考え方につながつているということ。
- ④ 「考える」という自分の能動的行為こそが、世界の存在を意味づけていると捉える経験主義につながつているということ。
- ⑤ 「考える自己」の意識（主体）と、考える対象としての世界（客体）とに分けて捉える認識論につながつているということ。

【12】

傍線部D 「そろばん（ゼニ勘定）」といふことば」を、筆者はどのような意味として用いていますか。その説明として最も適切なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。

【解答欄は問32】

- ① 近代産業社会における経済優先の生活の様態を象徴することば。
- ② かつての日本社会で重視されていた倫理觀を端的に表すことば。
- ③ 単純な四則演算の迅速な処理に過ぎない技能を比喩することば。
- ④ 子どもの頃に身につけるべき基礎学力を端的に言い表すことば。
- ⑤ 長年知識や技能の詰め込みだった日本の教育を象徴することば。

【13】

傍線部E 「富士の山は東海道を歩きながら見るものだと思った」のはなぜですか。その理由として最も適切なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問33】

- ① 次から次へと過ぎ去っていく、新幹線から見る富士山を背景とする景色とは異なり、歩きながら見ることによって、富士山の美しさや偉大さを一人でゆっくりと、心ゆくまで味わうことができるから。
- ② 新幹線や飛行機で移動することが当たり前の現代人が忘れかけていた、江戸時代の人々が歩いて旅をしながら感じた疲労感や、自然の脅威に対処してきた当時の優れた知恵を体験することができるから。
- ③ 東海道を歩くことによって、大きく立派な富士山の圧倒的な存在感に対し、自然に翻弄される人間存在のはかなさを自覚し、北斎や広重が体験した「自然が主人公であるという感覚」を共有できるから。
- ④ 自分の意志では制御できない交通機関による移動と異なり、歩いて旅をすることで、いつでも、どこでも自分の意志で立ち止まり、美しい富士山の姿や、荒々しい海の波しぶきを実感することができるから。
- ⑤ 歩いて旅をすることによって、雨風に打たれたり、天候が急変したり、暑さ寒さを実感したりすることができ、改めて自然の力を身に染みて体験することで、現代人の傲慢さを省みることができるから。

33

32

傍線部F 「神をも怖れざる所行として叱りつけたに違いない」と筆者が述べている理由として最も適切なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問34】

- ①経済活動を最優先させる現代人が、宣伝のためにスカイツリーの背景に富士山を小さく押し込めてしまう、広重の絵のパロディであるかのような構図の絵を描くことが、伝統芸術への侮辱であると感じたから。
- ②広重の浮世絵に代表されるように、富士山は日本人にとって神の山であつたはずなのに、その山をスカイツリーの引き立て役に使うことを許してしまったほどに現代日本人の品性が劣化してしまったと思つたから。

③広重にとって、富士山は畏敬する自然の象徴的存在であったのであり、その富士山を人工的なスカイツリーの後景としてこじんまり描くという行為は、現代日本人の傲慢さの極みであると思つたから。

- ④広重にとって富士山は神の山であり、人間の営みは小さなものに過ぎなかつたが、現代の日本では人間の造つた塔を主役とし、富士山をその塔を引き立てる卑小な存在に貶めていることに憤りを感じたから。
- ⑤現代人にとってはスカイツリーこそが世界に誇るべき建築物であり、広重が神の山と仰いだ富士山をスカイツリーの引き立て役に使うことに、何の痛痒も感じない現代日本人の精神に嘆かわしさを感じたから。

Aと**B**で共通する筆者の考え方の説明として最も適切なものを、次の選択肢①～⑤の中から選び、その番号をマークしなさい。【解答欄は問35】

- ①日本の古代人が持つていた、自然を崇敬し、人間は謙虚であるべきだという価値観は近代化推進の支障となってきたのだから、現代日本でその価値観を復活させる必要はないという考え方。
- ②日本が近代化に邁進してきた中で、西洋の文化によって駆逐されてしまつた伝統的価値観を復活させるためには、義務教育における教育内容を見直すことが非常に重要であるという考え方。
- ③日本の伝統は、すっかり近代化したように見える現代社会においても根底の部分では残つており、日常生活のさりげない所作の中にも垣間見える美質を改めて大切にすべきだという考え方。
- ④近代化の道をまっしぐらに突き進んできた日本の社会は、伝統文化をすっかり失つてしまつてしまつており、西洋の社会を模倣した社会になってしまったことを深く反省すべきであるという考え方。
- ⑤近代以降の産業社会の発展が日本の伝統的価値観や感性を根底から覆し、その伝統が日本の社会から失われていきつつあることを自覚し、一旦立ち止まるべきではないかという考え方。